

学生の生成 AI 活用実態とその利用意識

—何を考え、どのように AI を用いているのか—

福島健介¹

hukusim1@main.teikyo-u.ac.jp, fukushimakensuke0@gmail.com

*1: 帝京大学大学院教職研究科, 教育学部初等教育学科

◎Key Words 生成 AI, 大学生, 実態と意識, 日英比較調査

1. はじめに

2025 年 2 月 UK のシンクタンクである高等教育政策研究所 (HEPI) は、前年に引き続き「Student Generative AI Survey 2025」の結果を発表した。今回の調査の特徴は、生成型 AI (以下、AI とする) の利用実態だけではなく、それを利用することについての学生の意識・態度(Attitudes)についても調査をしている点である。

「Attitudes to generative AI In two new questions included in the 2025 Survey, we asked students about the factors that encourage or discourage them from using generative AI tools.」

我が国でも、AI の進化に伴い大学の授業にも大きな影響を与えており、利用実態に関わる調査は様々に報告されてきている。しかし、実際にレポートや授業課題等でそれを用いている学生がどのような考えをもって使っているのかという点については報告が少ない。

本稿では、上記「Student Generative AI Survey 2025」を翻訳し、本学の学生を対象に調査した結果を報告する。その結果を通して、学生の利用実態および利用意識について知見を得るとともに日英の比較についても言及をしたい。

2. 「Student Generative AI Survey 2025」の概要

同調査は 2024 年に初回が実施され、2025 年調査が 2 回目となっている。前年同様の質問項目が 15 と新規に加わった質問項目が 2 つ (Attitudes to generative AI In two new questions), それ以外に自由記述回答と性別・所属学部等の属性を尋ねる内容で構成されている。

同調査結果から特徴的な結果を取り出す。

2.1 AI の利用経験

「あなたはどのような用途で AI を使ったことがありますか?」という質問に対して、最も多い回答は「(ChatGPT 等を用いた) 文章作成」であり、64%の学生が経験していた。これは前年度の 30%から倍増している。また「何らかの形で AI を使用したことがある」と回答した学生の割合は、66%から 92%に跳ね上がっている。一年間で AI 活用を巡る学生の利用実態が大きく変化したことが理解できる。

同調査は「高等教育における生成 AI の広範な使用はもはや避けられない未来>ではなく、<すでに始まっている現実>である」と述べており、わずか 2 年で AI は高等教

育において定着している、という認識を示している。

2.2 課題での AI 利用実態と意識

調査では一般的な AI 利用体験だけではなく、授業課題等についての AI 利用実態についても調査をしている。

「作成した文章を AI で編集 (修正) し、課題として提出」(use in assessment after editing with AI) 経験のある学生は 5%→18%, 「AI の文章をそのまま利用」(use in assessment without editing) する学生も 3%→8%存在する。

一方、AI 利用が一般的になれば、学業・課題での利用で「何が許容されるのか」について学生の間で意識の差が見られる点も興味深い。出題された課題の概要についての説明や参考文献等の要約については、許される使い方であるとする学生がそれぞれ 66%, 53%と過半数を超えているが、作成した文章の編集 (修正) に用いることが許されると考える学生は 25%に留まっている。

また、男女で意識の違いがあることも報告がされている。以下の 2 つの結果 (表 1, 2) は 2025 年度新しく加わった設問である。

表 1 AI を利用する理由 (男女) %

Why do you use AI? All Men Women	全体	男性	女性
時間を節約するため	51	56	48
課題の質を向上させるため	50	50	50
即座にサポートを受けるため	40	41	40
個別のサポートを受けるため	32	33	31
通常の時間外でもサポートを受けるため	29	26	30
AI のスキルを向上させるため	28	36	22
AI を使用した方が、使用しない場合よりも学ぶことが多い	20	24	17
他の学生が AI を使用しているから	15	17	14
教育機関 (大学・学部) が AI の使用を奨励しているから	13	16	11
AI ツールを使用することに興味がない	7	4	7

全般的に男性の方が AI を積極的に利用していることが分かる。特に「時間の節約」「AI そのもののスキル向上」という課題の制作そのもの以外の理由で課題に AI を使う男性が女性に比べて多いという結果が出ている。

次に、「あなたが AI を学業・課題作成に用いることをためらう理由」についても尋ねている。男女ともに「不正を疑われる」という回答が最も多いが、男性 45%に対して女性では 59%がこれを懸念としており、男女差が見られた。それ以外で男女の回答に差が見られる項目としては「誤った結果やハルシネーションが起こる」という項目があるが、全般的に「使うことをためらう理由」については「不正の疑い」以外は差が見られない。

表2 AIの利用をためらう理由(男女)%

What puts you off using AI? All Men Women	全体	男性	女性
大学・教員から不正を疑われる	53	45	59
誤った結果やハルシネーションが起こる	51	48	53
偏った結果や結論が出る	37	37	37
所属機関がAIの利用を抑制または禁止している	31	26	36
データのプライバシー保護が十分ではない	23	24	22
AIを使用しない他の学生との間で公平性に欠ける	21	20	20
AIツールの費用が高すぎる	20	22	18
AIを使用しない方が多くの学びがある	18	17	18
著者の同意無しにAIモデルの学習にデータを使うこと	16	17	14
環境への影響	15	15	13
特になし。AIを使うことで満足している	4	4	3

3. T大学における調査結果

HEPIのアンケート調査を基に、17項目から12項目を選択し、学年・所属学部学科・性別等の属性と併せて調査をした。

3.1 概要

- ・回答者数 127名(表3)
- ・対象 T大学にて教職課程を履修する全学部生
- ・調査期間 2025年6月9日から2週間
- ・調査方法 授業内通知によるGoogleformsアンケート

表3 回答者概要(人)

	女	男	2年	3年	4年	その他	
小学校免許取得希望	34	62	67	24	4	1	96
中高免許取得希望(5学部)	7	24	22	8	1	0	31
総計	41	86	89	32	5	1	127

3.2 調査結果

まず、学習以外も含め、AIそのものの利用状況を尋ねた。「あなたは次のことをするためにAI(例:ChatGPTなど)を使ったことがありますか? あるもの全てにチェックを入れてください」という質問に対して最も多い回答は「自分の書いた文章を修正したり、改善したりする」で82名(64.5%)があると回答をした。次いで「文章を最初から作成する」69名(54.3%)となった。ここまでは50%を越えており、過半数の学生がAIを文章の作成や編集・校正に用いていることが分かる。

以下は「外国語文章の翻訳や分からない単語や文章の日本語訳」(43.3%)となった。一方で「どれもやったことがない」=使ったことが無い、と回答した学生が5名(4.7%)存在した。

大学入学前に生成AIを使った経験の有無については、2年生では33名(37.0%)が使った経験があると回答している。3年生以上では38名中1名のみが使った経験がある、と回答をした。ChatGPT3.5が世に出たのは2022年11月であるから、いかに普及速度が速いかがこの結果からも覗えた。

3.3 AIを課題に用いる理由・用いない理由

次に、2025年度HEPI調査に新規に加わった、「AIを課題に用いる理由」「用いない理由」についての結果を表4、5に示す。表はHEPIの表示に合わせ、全体・男女でその項目を選択した割合を示している。回答項目はHEPIの調査結果で割合の高い順で並んでいる。

表4 AIを利用する理由(T大学男女)%

Why do you use AI? All Men Women	全体	男性	女性
時間を節約するため	60%	65%	49%
課題の質を向上させるため	51%	47%	61%
即座にサポートを受けるため	42%	43%	39%
自分に適したサポートを受けるため	39%	37%	41%
通常の間外でもサポート受けるため	31%	31%	32%
AIのスキルを向上させるため	8%	8%	7%
AIを使用した方が、使用しない場合よりも学ぶことが多い	20%	23%	15%
他の学生がAIを使用しているから	13%	10%	20%
教育機関(大学・学部)がAIの使用を奨励しているから	16%	17%	12%
AIツールを使用することに興味が無い	6%	9%	0%

HEPI調査と同様に、課題にAIを用いる理由として最も多い回答は「時間を節約するため」であり、男性の方がその理由を挙げる割合が高い。この点はHEPIと同様の結果であった。

「課題の質を向上させるため」という理由が2番目に多い点は日英同様だが、T大学では男女で大きな差が現れている。

表5 AIの利用をためらう理由(T大学男女)

What puts you off using AI? All Men Women	全体	男性	女性
大学・教員から不正を疑われる	72%	70%	76%
誤った結果やハルシネーションが起こる	68%	70%	63%
偏った結果や結論が出る	47%	44%	54%
所属機関がAIの利用を抑制または禁止している	42%	49%	27%
データのプライバシー保護が十分ではない	13%	15%	7%
AIを使用しない他の学生との間で公平性に欠ける	17%	22%	5%
AIツールの費用が高すぎる	3%	3%	2%
AIを使用しない方が多くの学びがある	17%	16%	17%
著者の同意無しにAIモデルの学習にデータを使うこと	3%	3%	2%
環境への影響	3%	3%	2%
特になし。AIを使うことで満足している	6%	8%	2%

HEPI調査と比較すると「大学・教員から不正を疑われる」を懸念事項とする割合が男女ともに高い。

男女で回答の割合に大きな差が出ている項目は「所属機関がAIの利用を抑制または禁止している」で、同じ大学の中でも、学部学科・男女学生でも受け止め方が異なっていることが分かる。

4. おわりに

AIの利用及びその意識については、男女差が見られること、また、UKと比較したとき「不正を疑われる」と考える学生が多いことも明らかになった。調査の詳細な報告と日英比較及びその考察については分科会で報告を行いたい。

参考文献

- (1) Josh Freeman: "Student Generative AI Survey 2025", <https://www.hepi.ac.uk/2025/02/26/student-generative-ai-survey-2025/> (最終閲覧2025/6/28)
- (2) 仙台大学AI教育研究チーム: "学生と教員を対象とした生成AIの教育利用状況と意識に関する全国調査", 仙台大学(2024.7).